

事業所名 グループホーム勝央
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 3月25日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、介護職員2級、社会福祉主事、訪問介護員
B:現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

創始者の生家跡地を生かしたホームで、中国山脈の見える景勝の地・撞月があり、自然環境にも恵まれている。国道も直ぐ側を通り、交通の利便性も良い。

母体が医療機関であり、代表者である医師の定期的な往診・指導が受けられる。近隣の医療機関とも連携が取れており、救急入院体制もしっかり整い、入居者は安心して暮らせる。

職員は穏やかな態度で、入居者に対して自分の親と同じ気持ちで接しており、家族は安心してホームに任せられる。

職員全員が介護方針の具現化に向かい切磋琢磨しており、それが介護技術の向上へと繋がっている。

職員の家族に対する接遇態度は丁寧で、孫・ひ孫を含めた家族の来訪が多い。また、家族の食事代と宿泊は無料として訪問支援している。家賃(部屋代)が安価で管理費も無く、家族の負担を少なくしている。

地域の小学校・保育園の運動会や文化祭、中学生の体験教室など積極的に地域交流を進め、地域の仲間として溶け込んでいる。

自然の中で自然に沿った生活を大切にしている。野菜は菜園で作った物を使い、お米は近くの農家で分けてもらい、栄養士でもある職員がバランスを考えた食事を食卓に載せるようにしている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

管理者の方は同じ食事を摂られていたが、グループホームの本目である家族同様の共同生活という観点からも、職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しむ工夫があれば、さらに共同生活が楽しく潤ってくると思われる。

近くの農家でお米を購入するなど、地域との交流は深い。町内会に入会し、名実共に地域の一人として加われば、より地元の人との関係が深まり、「仲良しグループホーム勝央」の経営理念である「地域に開かれたホームづくり」に合致し、地域にとって掛け替えの無いホームになって行くと思われる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>入居者一人ひとりの生活歴・能力・ホームでの生活状況・変化など克明に記録に残している。記録内容について全職員がよく理解しており、残存能力を尊重し、入居者の自立した生活に向かって努力している。</p> <p>職員は入居者を人生の先輩として敬い、自分の親を預けた気持ちで接しており、入居者主体の「その人の持っている生活リズムを大切に」ホームを目指している。</p> <p>食事・清掃・園芸・レクリエーション等様々な行事をボランティアや地域の方と共同で行うことにより、良好な人間関係の構築を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>季節の移り変わりが体で感じられるように年間の行事を取り入れ、生活に自然なメリハリを付けてホーム生活を活性化し心身の調和を図っている。</p> <p>ホームの共用空間・玄関・外周りになどに複数の居場所を作り、自分の好みの場所で自分のペースに合わせて時間を自由に過ごしている。また、入居者を孤独にしないように心掛け、時には話し相手となっている。</p> <p>自然に恵まれた環境を生かし、広い庭での散策や畑仕事でなるべく自然の外気に触れるようにしている。また、犬を飼って触れ合うことにより、入居者の癒しとなり心の安定を図っている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者の生活歴をよく把握しており、元管理職の人には誕生会に挨拶をしていただく場面を作り、銀行に勤められていた方には接遇の指導をお願いする等、かつての経験呼び起こし自信に繋がるように配慮している。</p> <p>畑作りの好きな人には本人の望みにより草取りなど畑のお世話をしてもらい、漬物物の上手な人には漬物物の指導などでホーム生活の一助となってもらい、共同生活の中で経験を生かすように配慮している。</p> <p>重要な個人情報で不要となったものは全て責任を持って破棄するようにし、個人の情報に付いては関係者以外の前では話さず、個人情報の保全を徹底している。</p> <p>居室のドアはきっちりと閉めるか暖簾を掛け、入居者個々のホーム内でのプライバシーを守っている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>母体法人が運営する医療機関と系列のグループホームのネットワークを生かしている。医師である代表者の往診・指導はもとより、必要に応じて理学療法士が指導に訪れており、職員は介護技術の向上に日頃より努力している。</p> <p>入居者個々の過去の経験・特性等を詳しく記録し、ミーティングで話し合い職員全体でその人の残存能力の発見と持っている意欲に気づくように努めている。</p> <p>ヒヤリ・ハットを含め、些細な事故を残さず職員会議で報告し、管理者が研修してきた内容と照らし合わせて全員で研究・共有し、事故発生防止に努めている。</p> <p>職員は全員自主評価を行い、「仲良しグループホーム勝央」の経営理念に沿った認知症介護が出来ているか、共同生活として入居者が満足しているか等、常に反省と自己研鑽をして介護資質の向上に努めている。</p>		